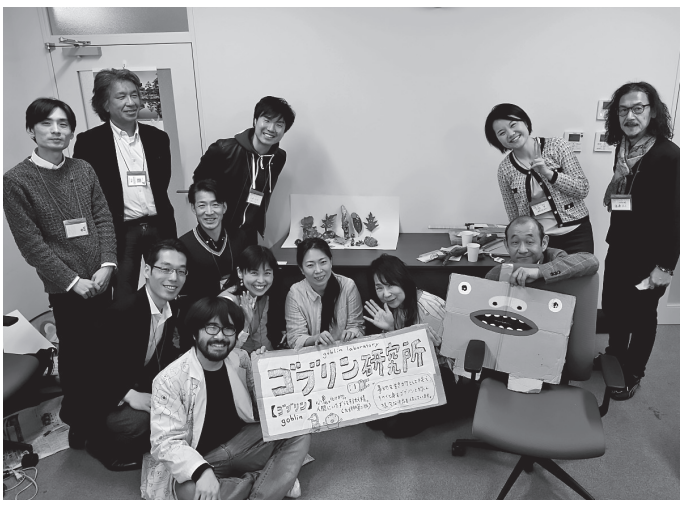


### 第15回若手交流会・異分野間協働懇話会・第3回若手科学者サミット報告

日本顔学会公認サークル「若手交流会」では2018年3月18日(日)に、東京大学本郷校舎にて第15回若手交流会春の遠足が開催されました。今回は筑波大学大学院の小中大地さんが「自然物からゴブリンをつくろう」と題してワークショップをおこなっていただきました。妖精ゴブリンを用いた活動は、竜巻災害時のケア、ある町の活性化、小児科、デイケアなど、ものづくりを通じたコミュニケーションが広がり、なんと海外にまで展開されているそうです。外に飛び出し三郎池のほうへ歩いてみると、まさに顔があちらにもこちらにも潜んでいることに驚かされました。石の壁に花びらを置いてみたり、木の枝を眉毛に見立ててみたり、これは涙を流しているのかしらと、どんどん想像力が膨らみます。今まではみえてこなかった「顔」がみえるようになり視点が変わり、自然物で作成したゴブリンも魅力的で楽しい遠足となりました。



2018年3月5日と6日は、日本心理学会・日本基礎心理学会・ヒューマンインタフェース学会・日本顔学会の若手の会が共催する若手心理学者の異分野間協働懇話会に、高橋翠さんと徐脱哲が参加し発表してきました。多分野間の多彩な研究発表、そして若手研究者間の深い交流があり濃密な2日間でした。

2018年6月4日、第3回若手科学者サミットが日本学術会議にて開催されました。第1部は若手研究者による研究報告で徐が研究発表を行ってきました。第2部である活動報告ポスターセッションは安藤圭佑さんと発表しました。第3部であるパネルディスカッションでは、「良い研究とは」のテーマのもと研究費の分配、論文の質、若手研究者への支援など日本国内のみならず世界との比較をしながら、これからはどうやっていけば良いかについて意見交換がなされていました。今回参加してみて、研究は縦幅だけ求めるのではなく、横幅の広さもかなり重要だと感じました。

創設より7年目に入る若手交流会は、これからも「顔」の面白さと奥深さを皆様と共に発見していきたいと思えます。  
(徐 脱哲 牛山園子)

### 2018年度総会報告

2018年9月1日(土)フォーラム顔学2018会場(明治大学中野キャンパス 低層棟5階ホール)において、2018年度の日本顔学会総会が開催されました。

菅沼新会長の開会挨拶に続いて、本年度の活動報告が行われました。開催中のフォーラム顔学2018の概況のほか、イブニングセミナー、学会誌、ニューズレターなどの定常的な活動の他、公認サークルについても報告がありました。

次に、金子会計担当理事から2017年度の決算報告として、一般会計および特別会計(フォーラム顔学2017)についての収支状況、および特別会計より「学会活性化特別枠」として一般会計への繰入れを行ったことが報告され、村上監事から適正な会計であった旨の監査報告が行われました。

続いて、菅沼会長から賛助会員の入会金引き下げと口数下限

の撤廃にともなう会則改正についての提案が行なわれました。この中で、賛助会員は学会に賛助できる上、企業など組織の図書室における学会誌の閲覧にも利用可能な制度であることが説明されました。また、2018-2019年度の役員構成、評議員会、学会誌編集委員会、ニューズレター編集委員についての紹介の後、北海道情報大学(江別市)で開催される来年度のフォーラム顔学2019をはじめ、学会の一層の活性化を目指した2019年度活動計画案が提案されました。

最後に金子理事から、例年と同様の収入・支出の想定のもとに、2019年度の一般会計予算案が提案されました。

以上の報告、提案は、満場の拍手をもって承認されました。  
(総務担当理事 今井健雄)



イベントなどでニューズレターを配布・広報いただける場合は、事務局までお知らせ下さい。

# J-FACE NEWS LETTER

日本顔学会ニューズレター 68号

13 DECEMBER 2018 Vol.68 <http://www.jface.jp>



### Contents

- P1. Now the Face
- P2~3. 第23回日本顔学会大会(フォーラム顔学2018)開催報告
- P4. 第15回若手交流会・異分野間協働懇話会・第3回若手科学者サミット報告/2018年度総会報告



第51回  
今、感じさせる  
KAOの人物を紹介する  
松本 明子 さん  
Akiko Matsumoto

たことをきっかけに、「探偵! ナイトスcoop」など関西の人気番組に出演するようになる。そこで、与えられたのが「心斎橋のシンデレラ姫」という称号だった。

それはまさに「てんこ盛り」をコンセプトにした関西ならではのドレススタイルだ。メイクよりも時間がかかるという髪には、マリー・アントワネットに対抗するかのよう、ハットとティアラとリボンが欠かせない。毎日4時間かけて心斎橋のシンデレラ姫ができていくのだ。4時間である! 心斎橋から東京へ行ってしまわないか。なぜ、そんなに時間をかけてヘアメイクをするのだろうか。

その答えはやはりメイク愛であった。もともとメイクが大好きで、中学生ぐらいからメイクがかかせない。すっぴんは嫌いでナチュラルメイクも嫌い。ナチュラルよりも、「メイクしました感」を大切にしているそうだ。江戸時代から、上方は濃いメイクが好きなのだ。そうでなければ、「厚化粧美人コンテスト」などという発想は生まれてこない。メイクしてなんぼ。厚化粧万歳! である。

4時間かけてでも、自分が納得する顔を追求し、それを見た周囲の人々にもハッピーになってもらう。メイクのポイントは「ハッピー眉まゆ」と名付けられた独特のカーブを描く眉である。「アゲアゲハッピー」をモットーに、自分も周囲の人々も幸せにするメイクを日々心がけている。愛をこめて、「ハッピー眉まゆ」を描いています♥♥♥ 長年描いているうちに、現在の形になっていったらしい。自分の顔を授けてくれた両親に心から感謝しているという姫。特に顔の「バランスの要」となってくれる鼻がお気に入りという。

メイクも人生も人がやらないことをやる。そんな松本さんにとって、将来の目標は200才まで生きることだと言う。「100才までなんて、誰でも言ってるでしょ。だから、私は200才まで生きる!」そのためにヘルシーな食生活を心がけているらしいが、それよりも毎日の4時間メイクが彼女の生きる原動力になっているのではないだろうか。

最後に、松本さんにとって、いや「心斎橋のシンデレラ姫」にとって、「顔とは何か」を問うてみると、「命。魂。」という答えがすぐに返ってきた。「顔はコミュニケーション。自分は顔で何を訴えられるか。親に生んでもらったあとは、自分でつっていかないと。」

ふと、シンデレラ姫が愛用する香水の生みの親ココ・シャネルの言葉が浮かんだ。「20才の顔は自然からの贈り物。50才の顔はあなたの功績。かけがえのない人間であるためには、人と違っていなければならない。」一瞬、シンデレラとシャネルが重なって見えた。(文：米澤 泉、協力：池袋 絵意知)

【プロフィール】  
熊本県出身。芸術学部卒業後、ライセンス・ファッション・デザイン・企画・契約ビジネスを始める。アパレル会社やドレスメーカーでデザイン、企画、開発、営業などを経て、大阪心斎橋でブライダルサロン「ルアーージュ」を開業。そのデコ盛りヘアメイクとドレス姿で「心斎橋のシンデレラ姫」として知られ、近年ではSNSや「週刊女性」でも話題に。タレントとしてテレビ出演多数。自身が作詞した曲「心斎橋のシンデレラ姫/超熟美魔女」で歌手デビューも果たす。

なんてたって、シンデレラ姫である。そんじょそらの美魔女ではない。超熟美魔女なのだ。一度見たら、決して忘れることのできない個性とそのオーラ。彼女が街を歩けば、人垣ができ、歩くパワースポットとの異名をとるほどの人気者である。スマホの待ち受け画面にすると運氣が上がるなど数々の伝説を持つ心斎橋のシンデレラ姫。いったい彼女は何者なのか。その正体を探りに、心斎橋へと出かけた。

### ■心斎橋のシンデレラ姫 松本明子さん

心斎橋で30年以上にわたってブライダルサロンを経営する松本明子さんが、シンデレラになったきっかけは、1983年に行なわれたその名も「厚化粧美人コンテスト」に出場したことだった。朝日放送主催で行なわれたこのコンテストで準優勝し



# 第23回日本顔学会大会(フォーラム顔学2018)開催報告

第23回日本顔学会大会(フォーラム顔学2018)が9月1日(土)・2日(日)に、明治大学中野キャンパスで開催されました。大会テーマは、「顔はインタラクション」です。このテーマは、顔は人と外界の間のインタラクションのためのメディアであるということと、このフォーラムの開催において、中心的役割を担った明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科教員一同の研究分野を考慮して決めました。

大会には、211名の方にご参加いただき、また、1日の午後には平成30年度の日本顔学会総会が開催されました。



ホール参加者



菅沼薫日本顔学会会長の開会の挨拶 荒川薫大会長の開会の挨拶 鹿嶋晋明プログラム委員長による司会

## ■口頭発表

今年の大会では計5セッション19題の口頭発表があり、大会のテーマセッション「顔はインタラクション」では、顔、インタラクション、モノづくり、及び感性にまつわる研究が披露されました。さらに「顔の視覚」「似顔絵・盛り顔・笑顔」「自動生成」のセッションにおいても貴重な研究成果が発表されました。さらに、「顔身体学シンポジウムー顔・身体研究の学際的アプローチ」なるセッションが設けられ、活発な議論が繰り広げられていました。



ホールでの口頭発表

## ■ポスターセッション

ポスターは21題の発表がありました。ポスターセッションに先立ち、発表者には、ポスターの概要説明を全体会場でしてもらいました。大勢の参加者がポスターセッションの会場に集まり、熱心に発表者と議論を行っていました。



ポスターセッション

## ■原島賞、興水賞

原島賞は、ポスターセッションから、「大相撲専門雑誌における力士表象についての研究ー“展望号”の“顔”に着目してー」を発表された川野佐江子先生(大阪樟蔭女子大学)が、興水賞は、「深層学習を用いた視線変換画像の自動生成」を発表された山本敬彦さん(立命館大学)、瀬尾昌孝先生(立命館大学)、北島利浩さん(株式会社サムスン日本研究所)、陳延偉先生(立命館大学)がそれぞれ受賞されました。



原島賞を受賞された川野佐江子先生



興水賞を受賞された山本敬彦さん



原島博先生



興水大和先生

## ■デモ発表/作品展示/企業展示

デモ発表は2件、企業展示は4件でした。

作品展示は13件の発表がありました。ポスターセッションと共に、多くの参加者が集まり、発表されたシステムの体験などを行っていました。

## ■特別講演(2題)

1日には明治大学特任教授の杉原厚吉先生に「本当のことも知っても修正できない立体錯視の不条理」と題して特別講演をしていただきました。視覚の数理モデルを使うと、立体として実現できそうにない不可能立体でも、実現できるものがあることがわかるそうです。実際にありえない動きを伴う立体や、鏡に映すと姿が変わる変身立体など、様々な不可能立体の興味深い振る舞いをビデオにより紹介していただきました。2日には、明治大学国際日本学部准教授の森川嘉一郎先生に、「おたく文化における美少女の様式について」と題して、特別講演をしていただきました。そこでは、日本のアニメにおける美少女の顔の特徴と、秋葉原がそのような絵柄の広告物が並ぶおたく文化の聖地になった経緯について、数々のアニメ作品の紹介と共に解説していただきました。二つの特別講演は、一方は数理、他方はアニメと一見大きく異なるものですが、共に多くの聴衆を魅了し、参加者の皆さんは大変満足され、とても面白かったという声をたくさんいただきました。大変興味深い貴重なご講演に厚く感謝いたします。



杉原厚吉先生による特別講演



森川嘉一郎先生による特別講演

## ■イブニングシンポジウム

イブニングシンポジウムは、明治大学中野キャンパスの食堂で開催され、荒川薫大会長の挨拶、乾杯で始まりしました。



イブニングセッション

挨拶の中では、今回会場となった中野キャンパスの理念や展開されている教育・研究について紹介がありました。続いて宮下芳明実行委員長から、大会報告がなされました。発表件数や参加者数について報告がありました。歓談の後、来年のフォーラム顔学2019を主催する北海道情報大学の向田茂先生から、第24回大会のご案内がありました。その後、若手交流会による発表がありました。さらに、原島博先生による理事会からのお知らせと二日目の企画についての案内があり、最後に宮下実行委員長により、閉会の挨拶がありました。特別講演で紹介された立体錯視のデモ展示の実物などを見ながら、ご参加の皆様は和やかに談笑し交流を深めていました。



宮下芳明実行委員長の閉会の挨拶



次期実行委員長の向田茂先生

## ■謝辞

本大会では、多くの皆様大変興味深い研究発表や展示をご披露いただき、また、熱心にご議論にご参加いただき、誠にありがとうございました。お陰様で大変盛況なフォーラムを実施することができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。また、本大会を開催するにあたって多大なご協力とご支援をいただきました日本顔学会の菅沼薫会長をはじめ理事会の皆様、会員の皆様、そして実行委員の皆様にご心より御礼を申し上げます。最後に、日本顔学会の今後ますますのご発展をお祈りいたします。

(フォーラム顔学2018大会長 荒川 薫)